

# 『商学討究』 本学創立百周年記念号の刊行によせて

学長 山 本 眞樹夫

本学は今年（2011年）創立百周年を迎えました。新入生72名を迎え入れて小樽高等商業学校が開学したのは、明治44年（1911年）5月5日のことです。戦後の新制大学発足時には、旧制高商で唯一単独昇格し（1949年7月7日開学）、「実学、語学及び品格」という小樽高商の教育理念と伝統を引き継ぐ特色ある大学として発展してきました。

今年、本学は7月8日の創立百周年記念式典をはじめ、様々な記念行事を挙行し、また学生寮（輝光寮）の復活、史料展示室の拡充整備などの記念事業を行ってきました。この『商学討究』本学創立百周年記念号の刊行も記念事業の一環です。

『商學討究』第1巻上冊が刊行されたのは、大正14年（1925年）7月です。創刊号は論文5編からなる「研究」、3編の紹介・書評からなる「資料」及び「商品研究」の3部から構成されています。「商品研究」の部は、商品陳列館や石鹼工場をもつ実学の小樽高商の研究雑誌ならではの特色といえましょう。

しかし、『商學討究』の創刊は、先輩高商である東京商大『商学研究』、神戸高商『国民経済雑誌』、山口高商『研究会雑誌』、長崎高商『商業と経済』はもとより、後輩高商である名古屋高商『商業経済論叢』にも後れをとっていません。主な理由は財政面にあったようです。そこで同窓会は会費3円を5円に値上げし、増額分を「母校研究雑誌刊行事業の財政方面を援助」することとし、創刊にこぎつけたようです（『小樽商科大学百年史（通史編）』小樽商科大学出版会、2011年、278頁参照）。大学の要請に応じて同窓会が資金援助を行い特色ある事業に発展させるという、本学百年の歴史の様々な局面に見られる事業展

開が、この『商學討究』の刊行にも見られます。

その後、戦時中に『北方経済研究』に、戦後には『社会経済研究』に一時改称された時期がありました。小樽商科大学発足の翌年、昭和25年（1950年）に『商学討究』が復刊され第1巻第1号が刊行されました。同時に『人文研究』が分離し別の紀要として刊行されることとなりました。現在の『商学討究』第62巻（2011年）は、復刊第1巻以来の通し番号です。

このように、『商学討究』は、前身の『商學討究』以来86年の長きにわたって本学の研究成果を世に問い、また研究の質の高さを示し続けてきました。博士課程設置大学である本学にとって、研究雑誌『商学討究』の重要性はますます高まっています。また、ネットの普及により、大学の研究成果のオープン・アクセス化が進展しています。本学でも学術研究成果コレクション「Barrel」のネット上の公開と充実をはかり、『商学討究』は、誰もがいつでも見ることのできる体制を整えています。ネット上に溢れる研究情報の中で、コンテンツの質の高さ、すなわち掲載研究の質の高さが、以前にもまして問われる時代となっています。

『商学討究』のコンテンツの質を一層高め、従来以上に評価の高い研究雑誌となるよう今後とも努力したいと思えます。皆様のご協力とご指導をお願いし、『商学討究』本学創立百周年記念号刊行の挨拶と致します。